

～しつけ・道徳教育に関する調査～
親は家庭のしつけを重視する一方で、学校での道徳教育にも期待
我が子に身につけてほしいことは「こんにちは」や「ありがとう」
「しつけをお願いしたい人物」の1位は“尾木ママ”

日本教育文化研究所

日本教育文化研究所(理事長:河野達信、所在地:東京都千代田区)は、幼稚園児・小学生・中学生・高校生の子供を持つ男女 1,030 人を対象に、子供に対するしつけ・道徳教育に関する調査を実施いたしました。

本調査の目的は、家庭におけるしつけや学校・幼稚園等の教育機関における道徳教育についての保護者の意識を探ることです。

調査では、家庭におけるしつけと幼稚園・学校における道徳教育の重視度や、我が子にどんなことを身に付けさせたいか等を尋ねました。

調査結果では、8割の保護者が家庭における「しつけ」を重視しているとする一方で、半数以上が教育機関での道徳教育にも期待していることが分かりました。中でも、教育機関に期待する理由としては、「客観的な道徳教育を受けられると考えているから」が約6割と最も多く、「子供が素直に受け入れてくれそう」(45.9%)、「より質の高いしつけや道徳教育をしてくれそう」(25.0%)が続きました。

保護者が我が子に身につけさせたい具体的な内容として、家庭においては、「日常のあいさつ」(78.9%)、「感謝や謝意を伝える言葉」(75.3%)が特に多く、「ウソをつかない」(40.7%)、「約束を守る」(36.2%)、「思いやりの心を持つ」(35.1%)等も多く見られました。

一方、教育機関に求める道徳教育においては、「人と協力する」(48%)が最も多く、次いで「決められたルールや規則を守る」(43%)、「日常の挨拶」(35.7%)の順に、他者とのコミュニケーションを取っていく上で、必要不可欠なことを重視している姿勢が伺えました。

また、調査では、保護者自身の幼少期におけるしつけの体験についても尋ねました。その内の約半数が、自身の幼少期に「厳しくしつけされたと思う」と答えており、家庭で受けたしつけについて「良かったと思う」と答えたのは約6割、しつけが「身に付いた」という人が約7割を占めていることから、しつけや道徳教育の重要性を保護者が身を持って認識していることが伺えます。

その他に、子供のしつけをお願いしたい著名人を聞いたところ、“尾木ママ”こと教育評論家の尾木直樹さんが圧倒的な支持を集めたほか、ドラマのイメージから武田鉄也さん、偉人では坂本龍馬等が挙がりました。

【しつけをお願いしたい著名人 TOP5】

(件数)

1	尾木直樹／尾木ママ	171
2	武田鉄矢／金八先生	51
3	ビートたけし／北野武	37
4	坂本龍馬	23
5	池上彰	18

調査結果の詳細は、次頁よりご参照くださいませ。

『子供に対するしつけ・道徳教育に関する調査』調査概要

- 調査期間: 2013年3月14日(木)～3月15日(金)
- 調査方法: インターネットリサーチ (調査会社保有のパネルを使用)
- 調査対象: 幼稚園児・小学生・中学生・高校生の子供を持つ男女(エリア: 全国)
- 有効回収数: 1,030サンプル ※子供(長子)の性×学齢別に下記割付に沿って回収
- 詳細分布:

	園児 (幼稚園)	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生	高校生	計
男子	103	103	103	103	103	515
女子	103	103	103	103	103	515

- 調査内容:
 - 家庭での「しつけ」の重視度
 - 学校・幼稚園での「道徳教育」内容認知
 - 学校・幼稚園での「道徳教育」期待度とその理由
 - 家庭で子供に身につけさせるべき大切なこと
 - 学校で行う道徳教育において、子供に身につけさせるべき大切なこと
 - 自身が家庭で受けてきた「しつけ」について【厳しさの度合い/良かったと思うか/身に付いたと思うか】
 - 「しつけ」や「道徳教育」の負担の度合いの変化
 - 「しつけ」をお願いしたい人物
 - 日本人として身につけておかねばならないこと
 - 子供に身につけさせるべき道徳性について 等

■ 日本教育文化研究所(教文研)について

日本教育文化研究所(教文研)は、「美しい日本人の心の育成」とする基本理念の実現と、教育正常化を図るため、国内外の教育文化に関する調査研究を行い、我が国の教育の発展に寄与することを目的として、昭和59年(1984年)に設立された調査研究機関です。

* ホームページ : <http://www.ntfj.net/kyoubun/>

<本件に関するお問合せ先>

日本教育文化研究所 担当: 早野

TEL: 03-3262-1859 FAX: 03-3264-3829 E-mail: kyoubun@ntfj.net

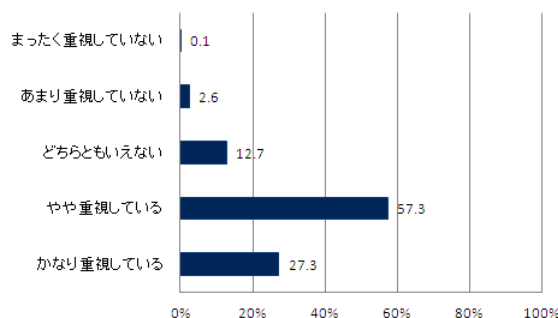
『子供に対するしつけ・道徳教育に関する調査』結果概要

全体の8割が子供に対する「しつけ」を重視している

家庭での「しつけ」の重視度を質問したところ、全体の8割が、我が子に対するしつけを重視していることが分かりました。

また、小学生低学年(男女とも)を長子に持つ人は、しつけを重視している傾向にある一方で、長子の学齢が上がるほどしつけへの重視度は低くなる傾向が見られました。なかでも、女子小学生低学年を長子に持つ人が「しつけを重視する」と答える割合が高く(91.3%)、逆に最も低かったのは男子高校生(71.8%)を長子に持つ人でした。

あなたは現在、保護者として、家庭でのお子様(しつけ)をどの程度重視されていますか。あてはまるものをお知らせください。



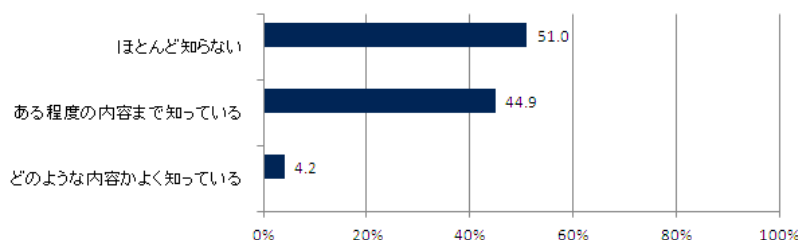
約半数の親が教育機関で実施されている道徳教育の内容を把握

教育機関での「道徳教育」について「どのような内容がよく知っている」のは4.2%、「ある程度内容まで知っている」のは44.9%で、これらを合わせた認知率は49.0%と、ほぼ半数が認知していました。

男女別にみると、「どのような内容がよく知っている」の割合は、女子の保護者の方が男子よりも高くなっています。

学齢別にみると、認知が最も高いのは女子低学年の60.2%で、最も低いのは女子高校生の36.9%。同じ学齢でも、小学生低学年で性別での差が目立ち、女子の方が男子よりも20ポイント近く高い結果となりました。なお、中学生以上については、男子の方が女子よりも高い結果となっています。

あなたは現在、保護者として、学校や幼稚園などの教育機関で行う、お子様への「道徳教育」の内容について、どの程度ご存知ですか。あてはまるものをお知らせください。

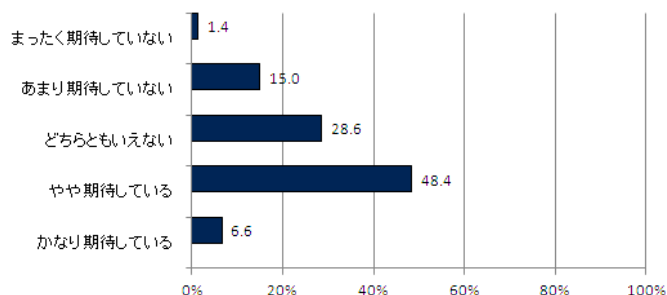


半数以上の親が教育機関における道徳教育に期待

教育機関での「道徳教育」に「かなり期待している」のは6.6%、「やや期待している」のは48.4%で、これらを合わせた期待度(TOP2)は半数以上を占めました。

男女別では女子のTOP2の方が高く、学齢別では低学齢ほど期待度が高い傾向にあります。男女別×学齢では、TOP2が最も高いのは女子園児の70.9%で、最も低いのは男子高校生の34.0%でした。同じ学齢でも、園児、小学生低学年、高校生は女子の方が10ポイント以上高く、小学生高学年は男子の方が10ポイント強高い結果となっています。

あなたは現在、保護者として、学校や幼稚園などの教育機関で行う、お子様への「道徳教育」にどの程度期待していますか。あてはまるものをお知らせください。

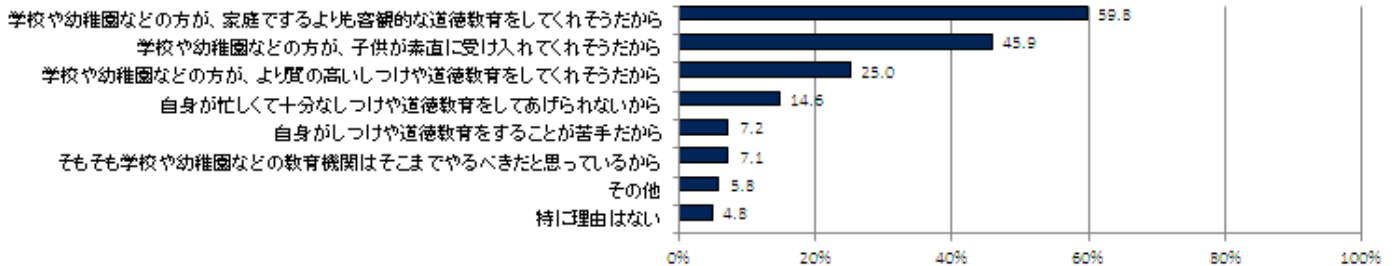


教育機関での道徳教育に期待する理由は「客観的な教育をしてくれそうだから」が約6割

教育機関での「道徳教育」に期待する理由は「家庭よりも客観的な道徳教育をしてくれそう」が59.8%と最も高く、「子供が素直に受け入れてくれそう」が45.9%、「より質の高いしつけや道徳教育をしてくれそう」が25.0%で続きました。

「家庭よりも客観的な道徳教育をしてくれそう」は女子の園児、小学生高学年において高く、「子供が素直に受け入れてくれそうだから」は男女とも園児が他の学齢よりも高い結果となりました。なお、「家庭で養うのが理想ではあるが年頃の子供は外で身に付ける方が素直に聞き入れやすいと思うところもある」(高知県/49歳女性)といった意見も多く見られました。

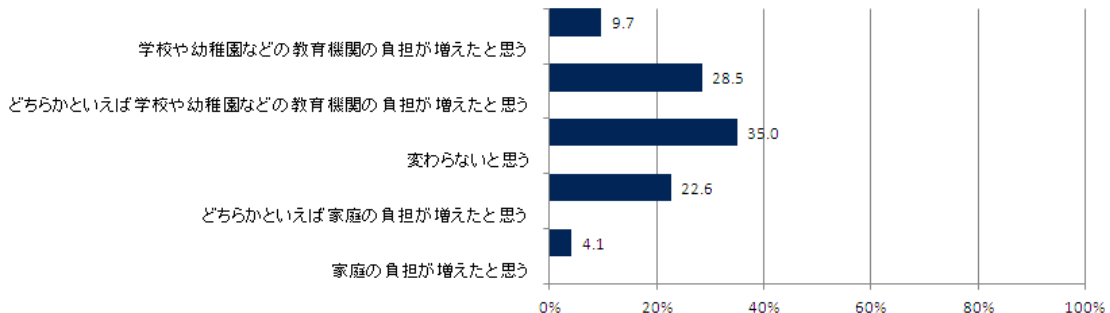
あなたは保護者として、学校や幼稚園などの教育機関で行う、お子様への「道徳教育」に期待する理由は何ですか。
あてはまるものをいくつもお知らせください。



保護者は自身の幼少期に比べて「教育機関の負担が増えた」

保護者自身の幼少期に比べて、家庭や学校・幼稚園等の教育機関におけるしつけや道徳教育の負担の度合いを聞いたところ、教育機関の負担が増えていると感じる人が比較的多く見られました。

あなたご自身が子供だった頃に比べ、現在の、親/学校や幼稚園などの教育機関が行う「しつけ」や「道徳教育」の負担の度合いは、変化があると思いますか。
あなたのお感じにあてはまるものをお知らせください。

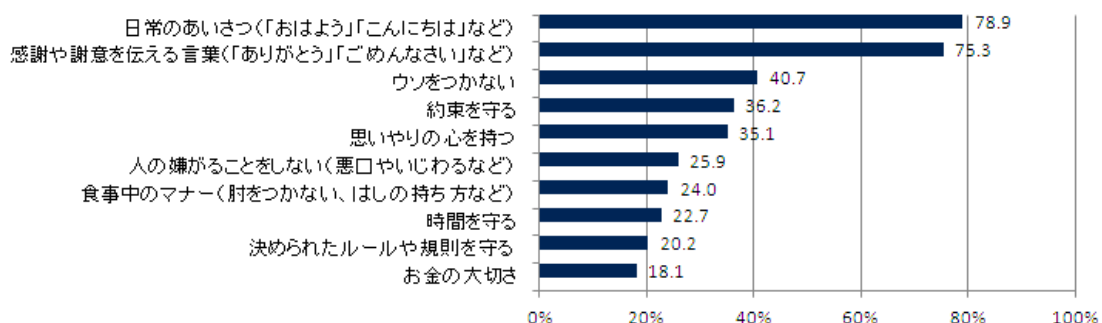


家庭で身に付けさせたいのは「日常のあいさつ」(78.9%)や「感謝や謝意を伝える言葉」(75.3%)

家庭で身に付けさせるべき大切なことは、「日常のあいさつ」(78.9%)、「感謝や謝意を伝える言葉」(75.3%)が特に高く、「ウソをつかない」(40.7%)、「約束を守る」(36.2%)、「思いやりの心を持つ」(35.1%)と続きます。

「日常のあいさつ」「感謝や謝意を伝える言葉」は、男女とも園児が他の学齢よりも高い結果となりました。また、「約束を守る」「時間を守る」は、男女ともに学齢が上がるほどスコアも高く、「食事のマナー」は男子において学齢が低いほどスコアが高い結果となりました。

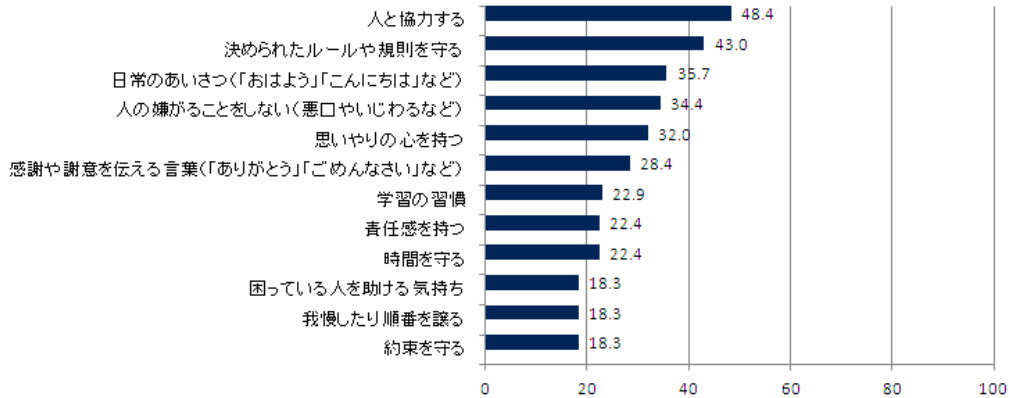
あなたは保護者として、家庭で子供に身に付けさせるべき大切なことは何だとお考えですか。
(あてはまるものを5つまでお選びください。)



教育機関に求めるのは「人と協力する」(48.4%)「決められたルールや規則を守る」(43.0%)

幼稚園・学校といった教育機関の道德教育で身に付けさせて欲しい大切なことは、「人と協力する」が48.4%と最も高く、「決められたルールや規則を守る」(43.0%)、「日常のあいさつ(35.7%)」、「人の嫌がることをしない」(34.4%)、「思いやりの心を持つ」(32.0%)と続き、他者とのコミュニケーションを取っていく上で必要不可欠なことを、教育機関に求めている傾向が伺えます。「日常のあいさつ」は、男女ともに園児の他、高校生でも高いスコアとなっています。

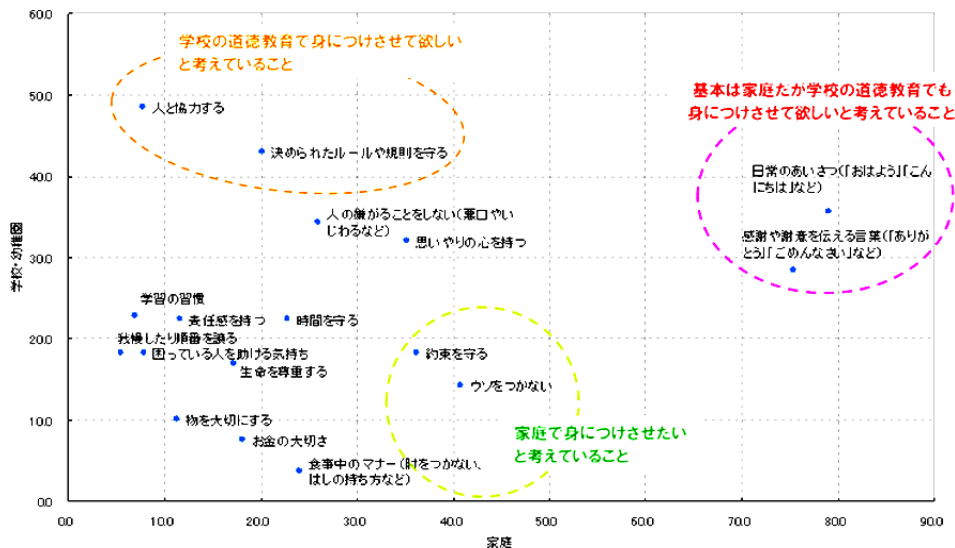
あなたは保護者として、学校で行う道德教育において、子供に身に付けさせて欲しい大切なことは何だとお考えですか。(あてはまるものを5つまでお選びください。)



家庭を基本としつつ、教育機関にも期待するのは「あいさつ」、「謝意」

以下は、家庭で身に付けさせるべき項目を横軸、学校で行う道德教育で身に付けさせて欲しい項目を縦軸にとった場合の各項目のポジショニングマップです。

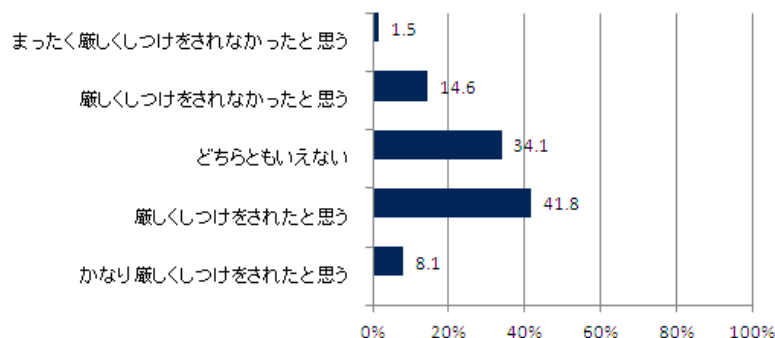
基本は家庭で身に付けさせたいけれど、学校の道德教育でも身に付けさせたいことは「日常のあいさつ」「感謝や謝意を伝える言葉」が多いことが分かります。



保護者自身が「厳しくしつけられたと思う」との回答がほぼ半数

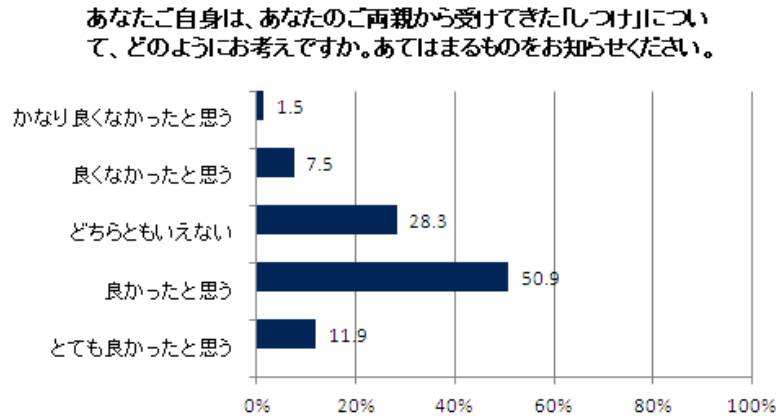
自身のしつけについては「かなり厳しくしつけられたと思う」(8.1%)、「厳しくしつけをされたと思う」(41.8%)を合わせて49.9%の人が「厳しくしつけられた」と回答しています。

あなたご自身は、あなたのご両親から受けてきた「しつけ」について、どのようお感じですか。あてはまるものをお知らせください。



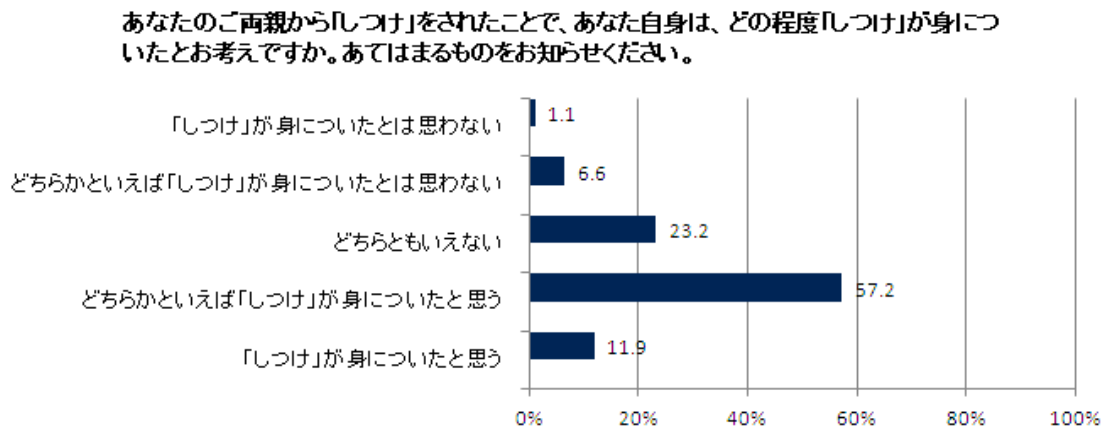
家庭で受けたしつけについて「良かったと思う」と答えた保護者は約6割

自身が家庭で受けたしつけについてどのように考えるか聞いたところ、「とても良かったと思う」(11.9%)、「良かったと思う」(50.9%)を合わせると、62.8%の人がしつけを受けたことを前向きに捉えている姿勢が伺えます。



約7割の保護者が家庭で受けた「しつけ」が身に付いていると回答

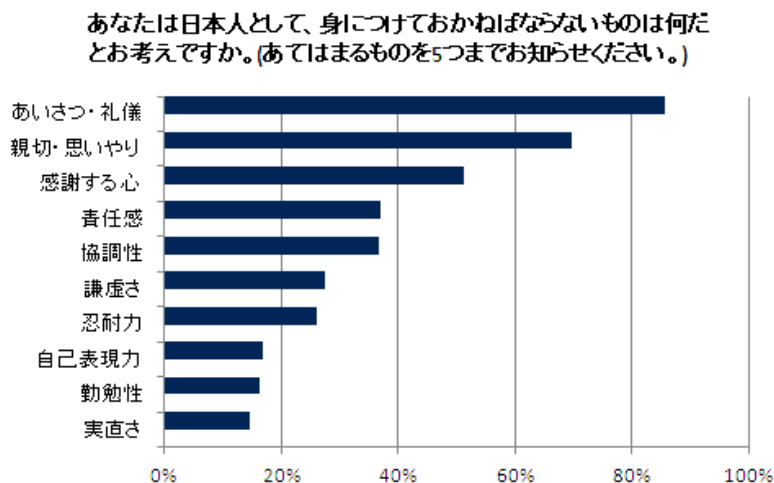
自身が家庭で受けたしつけについて「身に付いたと思う」のは11.9%、「どちらかといえば身に付いたと思う」が57.2%で、これらを合わせたTOP2は69.1%を占めます。



日本人として身に付けておかなければならないこととして「あいさつ・礼儀」が8割超

日本人として身に付けておかなければならないことは、「あいさつ・礼儀」が85.5%と最も高く、ついで「親切・思いやり」(69.8%)、「感謝する心」(51.3%)が続きました。

男女ともに園児では「親切・思いやり」が高い一方、「責任感」は低いスコアとなっています。また、「協調性」は、男女ともに低学齢ほどスコアが高い傾向が見られます。



子供に身に付けさせるべき道徳性について ※自由回答。一部抜粋

- ・「挨拶や礼儀は必ず親が率先して教育していかないといけないと強く思います。」(岡山県・45歳男性)
- ・「いつの世も、前世代が、新世代を見て道徳崩壊と嘆くが、今の日本がそれほど悪化しているとは思えない。ただ、もう少し自分に自信を持てる発想が欲しいと思う。その根源は、実は愛国心にあるのではと考えている。」(神奈川県・43歳男性)
- ・「他人を思いやる心と感謝の気持ちが大事。それと最近の情勢に伴い、戦前とは違った新たな『愛国心』を教育機関では教え込んで欲しい。」(山口県・45歳男性)
- ・「子供の頃から個性、自己主張をもてはやす風潮があるが、世界から賞賛される日本人の特徴である、勤勉、実直、協調性、親切等を重視したしつけの方を重視するべきと思う。」(栃木県・47歳男性)
- ・「本来は、家庭で教えるのが重要だと思う。ただ、近頃は個を重んじるばかりに、他人を思いやったり、他人の痛みを鈍感な子供が多いと感じます。そういう家庭が増えているということは、学校の道徳授業の充実に期待するしかないのかも。」(広島県・42歳女性)
- ・「日本人として自国の美徳や文化、歴史を正しく知っていく機会を与えてあげるべき。学校だけでなく社会が道徳を意識して、みんなで身に付けていけるような社会的努力が必要。」(兵庫県・46歳女性)
- ・「高度経済成長、核家族化、共働き、晩婚化、受験のための教育およびメディアの発達に伴う国民意識の欧米化等によって、親も教育機関も、子供の自我の育成・確立に影響を与えられる機会が減っていると感じる。なぜ資源の乏しい日本が、アメリカやEUと肩を並べられるまでに発展できたかを、歴史を紐解いて見つめ直して、日本人として生まれ育ったことに誇りを持って、国の発展や他国への思いやりを持てる、自分で考えられる大人を育てるために、道徳にもう少し比重を置いた教育制度の見直しが必要だと思います。(現代の子を持つ親は、大半が受験戦争に明け暮れ育ってきて、既に日本人としての誇りと威厳を持ってない大人になっています。)」(埼玉県・48歳男性)
- ・「家庭環境で大きく変わると思うので幼いころより家庭でのしつけが大事だと思う」(奈良県・50歳女性)

子供にしつけをお願いしたい著名人1位は“尾木ママ”、偉人では坂本龍馬が支持を集める

「しつけ」をお願いしたい著名人を聞いたところ、圧倒的な支持を集めたのは、“尾木ママ”の愛称で親しまれている教育評論家の「尾木直樹」。自身も教育の現場に立ち、昨今は、教育問題に対して真摯に発言する姿がメディアで露出されることも多く、支持を集めたことが伺えます。

次いで、「ビートたけし／北野武」、「武田鉄矢／金八先生」といった回答も見られる一方で、歴史上の人物としては、「坂本龍馬」、「福沢諭吉」等、その時代を牽引してきた人物に票が集まりました。(敬称略)

(件数)

1	尾木直樹／尾木ママ	171
2	武田鉄矢／金八先生	51
3	ビートたけし／北野武	37
4	坂本龍馬	23
5	池上彰	18
6	福沢諭吉	17
6	北斗晶	17
6	星野仙一／星野監督	17
9	所ジョージ	16
10	イチロー	14
11	マザーテレサ	12
11	織田信長	12
13	タモリ	11
13	松岡修造	11
13	徳川家康	11